

農事組合法人「大浦ファーム」 代表理事

谷口 和さん

農業法人の経営者は語る

明日へ向かって駆ける

「任意組織では、平集落の農地は守れない。地域の農家が協力して農地を守り、収益を確保していくために法人化が必要だった」と、舞鶴市平の農事組合法人「大浦ファーム」代表理事の谷口和さん(71)は話す。

同集落は、市北部の大浦半島の一角にあり、舞鶴湾を目の前に望む。35戸の農家が12畝の農地で、水稲中心の農業経営を行ってきた。

同法人は農業機械の過剰投資を防ぎ、共同利用を進める目的で組織化された任意組織「平機械組合」が母体。JA京都にのくによ行政の支援を受け「平の田んぼは、平

で守る」を合言葉に、2013年にスタートした。「平機械組合」の組合員31人全員が同法人の組合員となり、現在も設立時の組合員が協力して農作業に取り組み。一方で、集落では高齢化による後継者不足が深刻になっている。

同法人への農作業の全面受託が増え、水管理や草刈り作業も増加している。同法人の取り組みを知ってもらい、農作業への参加を呼び掛けるため、地域の盆踊りやお祭りなどに法人として積極的に参加し、青年会などの若者との交流を

深めている。その中から、同法人の後継者が出てきてほしいと期待している。

谷口さんは「法人化を中心となって進めていた方が突然に亡くなり、私が急ぎょ代表を引き受けることとなった。大変なことも多いが、いつもその方の熱い遺志を思い出して頑張っている」と語る。「今後も水稲が中心の経営になるが、特産品づくりやインターネット販売などの取り組みにもチャレンジしてみたい」と意欲的だ。

.....

■法人所在地 舞鶴市字平1629。電話 0773(68)0003(谷口代表宅)。

■法人概要 2013年2月設立。理事5人、監事1人、農繁期にパートタイマー5人。経営面積 3.4畝(特別栽培米1.4畝、もち米4畝)、加工米「京の輝き」70㍗、農作業受託3.5畝。農機 2コンバイン3台、トラクター1台、田植え機1台、米乾燥機2台、色彩選別機1台。

▶平の地で農業を支える谷口さん



農守る思い 受け継ぐ